

ジオパークの森 春の植物観察会

加瀬 久美子

ジオパークの森の清掃作業終了後10時〜11時半迄、保立さんによるジオパークの森の植物観察が行われました。参加者は18名。

まず散策コースの看板の所から東回りの松の木エリヤから進みました。周囲の松は全て背が高く、枯れた太い松の木数本には、林野庁により伐採予定の透明テープが巻かれていました。上の方を見上げるとオオシマザクラが松の木の間から顔を覗かせていました。ソメイヨシノは「エドヒガンザクラとオオ



植物観察会、円内はウラシマソウ

シマザクラの交配種」だそうです。今度は足元をみるとブルーのホタルカズラが可憐な姿で微笑んでいました。散策路を北側に向かって進むと松の木は姿を消して、左右は全て背の高いタブノキ林に覆われて薄暗く感じました。その下には、ヌルデ、ヤツデ、ネズミモチ、カジイチゴ、ヤブツバキ、カクレミノ、ノヒラン、ヤブコウジ、その他いろいろあり、照葉樹林から極相林への移り変わりをみる事が出来ました。気味悪かったのはウラシマソウでした。保立さんからウラシマソウとマムシソウはサトイモ科で両方共、毒が有るとの説明が有り、森の植物はうかつに触れない方がいいという事に納得しました。参加した皆さんの熱心な質問に丁寧な答えて頂き、保立さん

ありがとうございます。

ジオの森のコースを中々覚えられません。私の希望なのですが、曲がり角に小さな立て札、又は矢印などを付け

て頂けたらありがたいのですが。

関東大震災から 100年

防災士 保立 和則

今年、令和5年は関東大震災から100年です。しかし、今考えなければならないのは、次の首都直下地震が間近に迫っている、ということだと思います。いつ起きてもおかしくありません。首都直下地震だけではなく、千島海溝、日本海溝沖地震、南海トラフ巨大地震もまたいつ起きてもおかしくありません。

千島海溝、日本海溝沖地震の被害想定は、最大津波高30m。最大死者数約19万9千人です。また、南海トラフ巨大地震による最大津波高は34m、最大死者数は32万人です。テレビ、ラジオ、新聞、ネットなどで、毎日報道していることを、どれだけの人

が真剣に考えているでしょうか。また、千葉県房総半島沖地震も、前回1987年(昭和62年)の千葉県東方沖地震から36年が経過しています。過去の例からこの房総半島沖地震もいつ起きてもおかしくありません。繰り返しになります。36年前の千葉県東方沖地震の時、銚子で震度5を観測しましたが、震源に近い九十九里沿岸地域で沢山の屋根にブルーシートがかけられた上空からの異様な光景に衝撃を受けた覚えがあります。

巨大地震が迫っていますよ！と、お話ししても「ああ、そうですか」「銚子は大丈夫だよ！」「と、殆ど反応がありません。どうか銚子ジオパーク市民の会でも、今後必ず発生する巨大地震を広くお伝えたいと思います。

屏風ヶ浦の清掃に参加して

株式会社ダイナム

千葉 浩樹

パチンコホールダイナムは、市の広報誌でジオパークの清掃活動を知り、令和

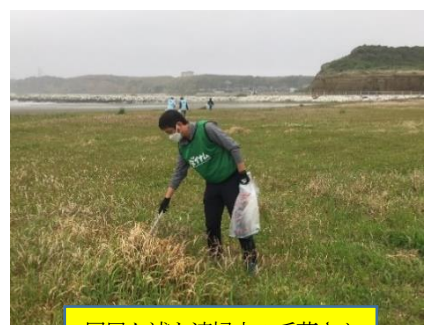
3年1月より参加させていただきます。

4月16日は屏風ヶ浦の清掃に参加しました。屏風ヶ浦で見かけるゴミは漂着物が多く、不法投棄的な大型のゴミや、ポイ捨てのゴミなどはないの他、少なう感じました。サーフィンを楽しむ方々も毎月、自主的にゴミ拾いを行っていること、地域の方々の環境美化意識の高さに感服しています。

自身の活動への意識は、不謹慎ではありますが、レクリエーションへの参加と同義です。場所は観光名所。外国製品や漁具など、ゴミでありながらも物珍しい漂着物。季節によってさまざまな面を見せる植生。一時間があったという間に過ぎてゆきます。

トライアスロン関係者や千葉科学大学の学生の参加もあり、この素晴らしい景観が、皆さまの手で保たれていることにあらためて敬

意を表します。清掃活動、お疲れさまでした。



屏風ヶ浦を清掃中の千葉さん

【本誌120号記事に頂いた問い合わせについて】

本誌120号の「幕末維新期の銚子」の記事で美加保丸遭難の「南無阿彌陀佛二品観王書」の石碑の文字が有栖川宮熾仁親王である根拠について問い合わせを頂きました。その根拠は、信太書店発行(1973年)の田中明著「幕艦美加保丸宮永正伝」によるものです。なお、本件については学術的に確立された定説はなく、諸説あることをご承知おき願えれば幸いです。(編集部)